



佐野中通信

ひたちなか市立佐野中学校
令和7年度学校だより
No.10 12月号
令和7年12月1日(月)

燐々照今 よりよき今をともに創らん

秋色の残る師走 冬の到来よ 早く!!

いよいよ師走、12月1日になりました。こここのところ朝晩の気温は下がり、外套を身にまとめて登校する生徒も多くなってきました。巨大な銀杏の木も、やっとのことで黄色に染まったところでです。毎朝の昇降口では、登校して教室へと向かう生徒のために東西のドアを開けて出迎えますが、温度計は10℃を下回る日がほとんどです。この季節、朝方にあっては涼しいという言葉は相応しくない季節となりました。しかしながら、晴れた日には午前10時を回ると陽が射しこみ、室内では26~28℃ほどに気温が上がる日も少なくありません。寒さの苦手な人にとってはありがたいのでしょうか、冬は冬らしくあってほしいと毎年のように思ってしまいます。正直なところ冬というにはまだ早く、秋色のまだ残る今日この頃です。

さて、今年は、感染症の流行時期が例年よりも早く、10月に1学級、11月に2学級の閉鎖をしました。受験を間近に控えた3年生は今のところ踏ん張ってはいますが、油断は禁物です。来るべき時に備えて、一日一日、その日その時を大切にして、年の暮れ、そして新年を元気で迎えられるようにしましょう。



11月8日(土)は地域の行事オークス秋まつり、11月16日(日)は佐野地区文化祭の開催日でした。どちらの行事にも本校からは合唱部が招待されました。なんと、約30分間も時間を与えていただき、青空の下、たっぷりと、歌を披露する機会となりました。生徒たちにとっては、普段の練習の成果を発揮するこの上ない機会であり、本当にありがとうございます。

ちなみに、このオークス秋まつりの開催は、何と6年ぶりのことです。担当者の方の話では、以前は毎年やっていたものではあっても、間が空くと、当時のやり方—knowhowがおぼろげなものとなってしまい、実施にあたっては手探り状態で何とか計画・準備をして、当日を迎えることができたそうです。

こんなことから思うことがあります。佐野中は来年度に創立80周年を迎えるので、その記念事業を行うことを1年前から考えてきました。いよいよ準備段階に入ります。本校では、周年記念事業は10年に1度という足跡を刻みながら今日に至っています。数年間空いただけでもかつてのやり方を思い出すのには苦労するのですから、この機会に80周年記念事業を行うことが先に生きると考えています。90周年、そして100周年を見据えて、まずは目の前の80周年記念事業を実施して、先の道標となるように、軌跡を残します。



生活の柱：時空人の「間」を照らす－時「間」・空「間」・人「間」

Key Word：時空人の間を燐々と照らして よりよき今をともに創らん



1学年では、12月4日（木）に実施予定の、勝田特別支援学校の生徒さんとの交流学習に向けて準備を進めています。

参加する生徒は四つのグループに分かれ、学校紹介のスライド作成や発表の練習、お礼のプレゼント作りなどに取り組んでいます。感染症が流行しており、思うように時間が取れない中ですが、同じグループのメンバー同士で協力しながら活動しています。交流学習が無事に実施され、貴重な学びの機会になることを願っています。



本校では、「黙働」を目指して指導を継続しています。毎日の清掃活動は、小中学校に通う児童生徒にとって、大切な活動の一つです。15分という短時間で、自分たちが毎日生活する場所をきれいにし、その活動を通して、生徒一人ひとりの公共心（公共の場や社会全体のために尽くそうとする心）を育もうとするものです。もし、全校生徒に公共心が育まれ、本校を卒業することができたら、社会にとっても大きな財産、人材となることでしょう。そんな人づくりのために、「清掃活動」があるといつても過言ではないのです。

写真は、A棟1階廊下の清掃担当となっている2年1組の生徒の様子です。年度当初より、清掃当番が変わるたびに、長い廊下を時間内に終えるための雑巾掛けのしかたや協力のしかたを指導します。それが実践できれば、自然に「黙働」になってきます。私たち教師の指導を素直に受け入れ、実践できる生徒たちがたくさん在籍している本校は、大きな強みをもっているといえます。

受験に向けて努力を続けている皆さんへ、心からのエールを送ります。長い時間をかけて積み重ねてきた勉強は、決して無駄にはなりません。思うように結果が出ない日があったり、焦りや不安に押しつぶされそうになったりすることもあるでしょう。しかし、その一つ一つが皆さんを強くし、成長させていきます。受験勉強とは、ただ知識を増やすだけではなく、「できるまで努力する力」や「自分を信じる勇気」を育てる時間でもあります。

受験が近づくと、緊張やプレッシャーを感じるのは当然のことです。でも、その気持ちは決して悪いものではありません。真剣に取り組んでいる証拠であり、皆さんが本気で未来に向かっているからこそ生まれる感情です。「不安だからダメ」なのではなく、「不安があっても歩き続ける」ことこそが大切なのです。

今までの努力を思い出してみてください。合格への願いを胸に、参考書を開いた日々。眠い目をこすりながら解いた問題。仲間と励まし合いながら過ごした時間。それらすべてが、皆さんの力になっています。そして、その努力は必ず本番であなたを支えてくれます。

